



創業支援

オリジナルケーキが売れて、一般的なショートケーキの姿はない

シンプルな焼き菓子のように、長く愛される店が目標だ

を、と期した数年前から、融資を受けやすいようにと定期的な貯蓄を始め、洋菓子店や雑貨店を年間数十軒も見て回るなど準備を開始。離れた故郷での創業には不安もあり、練り上げた事業計画書を手に、よろず支援拠点を訪れます。「どんな雰囲気の商品を置くのか? シックとはどんなシック? 売上予測は、曜日まで落とし込みを、などの指摘やアドバイスをもらうことで、ふわふわとしたイメージがより明確になった」と二俣さん。コイデイナーが融資申し込みにも同行し、ス

無料の経営相談所 /
鹿児島県
よろず
支援拠点
NEWS

夢ある洋菓子に
 こだわりの世界観を表現
 多くの人のケーキ屋に描くイメージは、ポップなかわいらしさでしょうか。それと一線を隔す「大人の雰囲気のお店」と、今年5月、松元インター近くにオープン。住宅街の一角のシックな佇まいと個性が光るお菓子が、早くもファンの心を掴んでいます。オーナーは、関西で修行を積んだ二俣武志さんと奥様の香苗さん。40歳で地元での独立

ムーズに融資が決定しました。
 しかし、創業にはトラップも潜んでいました。最大は家族での意見の食い違いです。妻の妊娠も重なり、立地や開店時期にブレキがかかったのです。流れを止めたくない武志さんは、「涙が出そうだった」と振り返ります。そのほか建築業者に意図が伝わらない苦労や予想外の水管理コスト発生など、困難を乗り越えての開店でした。
 オープンに際しては、過去の経験で、慣れないスタッフの疲弊を知るだけに、広告を打

たないスローオープンを選択します。蓋を開けると、広報担当である香苗さんのSNS告知だけが午前中で売り切るスタート。酷暑時は、客足の減少に悩んだものの、現在はリピーターも増えてきました。
 夏には県外研修を実施。スタッフの気づきが収穫で、「今後も続けたい。他店に触れることで、自分たちが作りたい世界が見えてくる」と武志さん。「松元の地域ブランドを高められる店に」と話す香苗さんとともに、愛される店づくりに邁進中です。

他店にないお菓子に
 出会ってほしい!



二俣武志 オナーシェフ



接客する香苗さんのセンスも菓子作りに活かされている



外・内観ともにグレーとブラウンでまとめた

ジャニス洋菓子店

鹿児島市石谷町1547-31
 tel.099-295-3734

